

テーマ 学習意欲を高める心理的治療 の実践研究

本研究は第1年次の理論研究に引き続く実践研究である。本研究のねらいは、学習意欲に問題を持つ児童生徒に心理的治療を行い、これらの児童生徒の学習意欲を適切な段階へ高めることであった。

学習意欲に問題を持つ児童生徒を、「学習意欲検査」の結果により、①学習意欲が低い、②各因子のばらつきが大きい、③自他評価の差が大きい、の3つの類型に分け、小・中学校各2名、計12名抽出した。そして、これらの児童生徒について各種の資料を整え、「治療カルテ」を作成して、各学級担任が心理的治療にあたった。

心理的治療には、カウンセリングや行動療法など多様な心理療法を用いた。1年後の「学習意欲検査」によれば、いずれも所期の目標とした適切な段階への変容がみられた。同時に、それぞれの児童生徒の持つ諸問題の改善と解決がはかられた。